



早朝 泥んこ祭り

短い秋が過ぎ、冬濃くなってきました。寒々とした木の枝で、ヒヨドリのかん高い声が響いています。2024年もあつという間でしたね。皆さんはもう新しい年を迎える準備はできましたか？

大掃除、お節の準備に年賀状書き…と忙しかった方もいたのではないのでしょうか。しかし以前に比べ、環境が改善され、大掛かりな掃除も必要なくなりました。お節も作るより注文される方が増えたとか。年賀状も印刷業者に依頼したり、ネットで済ませたりで、年の瀬が楽になったと感じる方もおられるようです。

昔は、年末年始にスーパーが閉まる為、こぞって買い溜めに走りましたが、今ではコンビニや一部スーパーマーケットが24時間・365日開いている為、食品・日用品には事欠きません。買い溜めの必要が無くなった反面、四六時中、店が開いているからと、いつもと同じように買い物に出かけてしまいます。

であるなら、準備に多少時間をとられても、世の中が多少不便であったとしても、年末年始位はゆっくり過ごしたい…と思う私がおります。(しかし叶わぬ夢…恐らく私は、年末年始は仕事かと思われませう。)

時間がゆっくり流れていた昭和の頃は、空き地も多く、舗装された道路も少ない時代。寒い朝には、そこらじゅうで霜柱が土を持ち上げます。子供達は、靴を泥だらけにしなが、それを踏み散らかして遊びました。(親にこっぴどく叱られましたね) ギュッギュッと雪を踏みしめる音は、降雪の少ない浜松では滅多に聞けません、霜柱のザクザクした音で、冬を感じたりできました。(温暖化からか霜柱を見る機会も減りましたが)

皆で昔を懐かしみ、“あったもの”、“無くなってしまったもの”を出し合ったら、賑やかな年の瀬になりそうですね。先の買い溜め、プリントゴッコに車のしめ飾り…。さて幾つ挙がるかな？除夜の鐘と同じ数だけ、難なく出てきそうな気がします。

もう幾つ寝るとお正月…。笑顔が絶えない2025年でありますように。

管理栄養士 青山



インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 予防接種について

今年のインフルエンザは2024年11月3日に流行シーズン入りしました。また、新型コロナウイルス感染症についても、例年、冬にかけて感染者が増加する傾向が見られます。今年は、この2種類の感染症の予防接種を受け付けております。

■ インフルエンザ予防接種
以下のどちらかに当てはまる方が接種できます。

- ・ 次回予約のあるかかりつけの方
- ・ 当院でインフルエンザ予防接種歴のある方

■ 新型コロナウイルスワクチン接種
・ 高校生以上の方であれば接種可能です。

1月31日まで、65歳以上の方は両ワクチンの接種費用が、公費で補助されます。ご自宅に届いた接種券が必要になりますので、接種当日に必ずお持ちください。

- ・ インフルエンザワクチン接種費用 (税込)

浜松市在住の65歳以上	1,600円
高校生以上	4,500円
- ・ Covid-19ワクチン接種費用 (税込)

浜松市在住の65歳以上	3,260円
高校生以上	17,000円

※ すべて1回接種です

〒431-3113
静岡県浜松市中央区大瀬町1568
TEL (053)-435-1111
FAX (053)-433-2700
Webページはこちら(QRコード) >>



翔 ぎ

はばた



No.76 新年号



浜名湖の赤鳥居に納まる落陽
冬至の前後1カ月のみ見られる風景です

医療法人社団 盛翔会

浜松北病院

基本理念

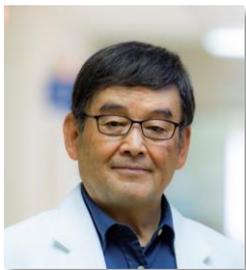
思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実践する



新年のごあいさつ

医療法人社団 盛翔会

理事長 澤田 健



皆さん新年おめでとうございます。

今年巳（へび）年です。へびは脱皮することから「成長」「変革」「復活と再生」の象徴とされ、新しい変化に前向きな年とされているそうです。

2025年は、団塊の世代の多くが後期高齢者を迎える年です。5人に1人が65歳以上、認知症高齢者人口は約700万人に上ります。10年前の2015年、厚生労働省は認知症施策推進総合戦略「新オレンジプラン」を策定しました。超高齢化社会の本格的な到来に向けて「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」ものとして、その実現目標を2025年と定めたのです。これは地域包括ケアシステムの実現と一体となった課題でもあります。

日本の医療は保険制度に支えられています。今後これを維持するには、一層効率の良い医療体制の構築が求められます。訪問や通所を含む在宅ケアと「かかり付け医」機能の徹底は、効率的に医療サービスを提供する上で欠かせないものになりつつあります。健康寿命の延伸も重要です。人生100年時代などと言われますが、サルコペニアやフレイルに直面する高齢者にとって、健康の維持には大変な努力を要します。ですが年々、元気な高齢者が増えてきているのも確かな事実です。

社会構造を維持する上で最も重要な課題は少子化対策ですが、かねてよりエンゼルプラン（現在は新エンゼルプラン）として政府が方針を定めています。社会状況の変化に応じて施策を修正しつつ、

生産者人口の維持と増加に努めています。

当院も40年以上、地域医療に貢献すべく努力を重ねてまいりました。療養病棟と回復期病棟の入れ替えにより、一層地域のニーズに対応した収益性の高い病院となりましたし、職員の皆さんの尽力により、急性期病院からの下り搬送が積極的に受け入れられるようになり、大変価値のある実績が築かれてきています。

今後、我々に求められるのは（高度急性期を除く）急性期・亜急性期医療です。診療所や施設、独居高齢者の入院需要に積極的に応じるため、受け入れの幅を広げることが、盛翔会の存在意義を高める上での課題となります。

建築コストの高騰などから延期していましたが、今年こそは病院建て替え計画に着手したいと思います。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

浜松北病院

院長 竹内 和彦



明けましておめでとうございます。

昨年10月に回復期リハビリ病床が32床から60床に増えました。けがや病気で生活機能が低下した患者さんが一人でも多くご自宅での生活に復帰ができるよう社会貢献して参ります。

超高齢化社会・多死社会・人口減少が進むわが国は、医療介護の大きな転換期にあります。政府は、今年中（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進してきました。この地域の包括的な支援・

サービス提供体制は、「地域包括ケアシステム」と呼ばれています。盛翔会が提供してきた地域に密着した急性期医療・回復期リハビリテーション・レスパイト入院、デイサービス・訪問看護・訪問リハビリ・在宅介護支援事業は、地域包括システム推進の中心的役割を果たしています。

盛翔会は、今後も地域包括ケアシステムの一翼を担う法人として、在宅医療を受けている患者様に対して、

- ① 病状の急変時など
在宅医療継続困難時の入院ベッドの確保
- ② 介護者の介護負担軽減や
介護継続困難時のためのレスパイト入院
- ③ クリニックの先生方が担当する
訪問診療患者様の急変時や
訪問対応不可時の入院受け入れ
- ④ 施設受け入れ困難な在宅療養患者や
独居の方の避難的入院と退院支援

などを提供していきます。更に医療と介護とのコーディネートを得意とする盛翔会の特徴を生かし、

- ① 高度急性期病院からの患者様の転院受け入れ（高齢者・認知症・癌末期患者など）
- ② 老人施設で病状の悪化などにより施設介護継続が困難となった患者様の入院受け入れ
- ③ 受け入れ患者さんのリハビリと
ADL（日常生活動作）・嚥下機能・認知機能の評価に基づいた介護方針の調整

などを積極的に行っていきます。

今後も安心して地域で過ごしていただくための医療・介護サービスを提供できるよう努力して参ります。

地域の皆様のご支援、よろしくお願い申し上げます。